

令和 6 年度以降のMaOIPプロジェクト取組方針

次期MaOIプロジェクト全体構想 (R5.8月委員会時資料)

【現行計画等】

【2024年度以降の新規取組(R5.8月委員会説明時点)】

MaOIプロジェクト第一次戦略計画

区分	内容
戦略Ⅰ 「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成	○多様な主体が参画する「MaOIフォーラム」を設置・活用 ○県内外の大学・研究機関との連携
戦略Ⅱ オープンデータ・オープンサイエンスの推進	○魅力ある海洋微生物ライブラリーの構築 ○データ駆動型研究の推進
戦略Ⅲ 拠点・プラットフォームの整備と活用	○MaOI-PARCを中心としたネットワーク型の拠点形成 ○AOI、ファルマ等との連携促進
戦略Ⅳ 研究開発領域の重点化	○シーズ創出研究の実施 ○水産資源回復に資する研究の実施
戦略Ⅴ 産学官金連携による産業応用の推進	○事業化や技術開発の支援 ○静岡市海洋産業クラスター等の機関との連携による産業応用の促進
戦略Ⅵ 人材育成・地域づくり・世界発信	○多様な専門人材育成やまちづくり ○国内外のクラスターとの連携強化と情報発信

駿河湾スマートオーシャン構想を念頭に置いた「海洋版デジタル田園都市国家構想」

海洋DXの実装

- ・データ利活用促進
- ・駿河湾内実証フィールド整備
- ・研究開発・事業化支援
- ・環境保全活動支援

海洋イノベーションエコシステムの創生

- ・JAMSTECなどの研究機関等との連携強化

ブルーテッククラスター構築への環境整備

- ・BlueTech Cluster Allianceへの加盟
- ・ブルーエコノミーEXPO (仮称)の開催

「海のユニコーン企業」の創出

- ・海洋スタートアップの集積
- ・高度デジタル人材の育成



スマートガーデン
ポर्टシティの実現

科学的知見の充実

浅海から深海へのブルーカーボンの推進

駿河湾の富を活かした新産業の創出

親水空間を活かした「みなとまち」の再生

【申請主体：静岡大学】
※今年度は不採択



海洋DX大学院大学構想

海洋の物理、化学、生物データの蓄積、解析、シミュレーション予測の技術開発の環境整備

- ・海洋ビッグデータの新産業利用
- ・シミュレーションにたけた高度デジタル人材の育成

【申請主体：静岡市】
※計画作成支援事業に採択
本年5月に本申請を予定

ブルーエコノミー駿河湾
国際ラウンドテーブル提言

区分	提言ポイント
デジタル田園都市国家構想の海洋版を発信	国際的な枠組みにおいて世界に日本のリーダーシップを発揮
国のリーダーシップのプラットフォームとなる組織の創設	海洋のサステナブルな保全と発展を目的とした「海の未来会議」を創設し、推進力とする。
政府の駿河湾スマートオーシャン構想への積極的な関与	ブルーエコノミーEXPO等により、駿河湾スマートオーシャン構想への政府の積極的な関与

【申請主体：静岡県】

次期MaO Iプロジェクト（新規取組(静岡県が申請中の交付金申請事業)）

【R5.8月委員会説明時点】

【新規取組(前回からの変更内容：**4本の柱を2本に集約**)】

「駿河湾スマートオーシャン構想を念頭に置いた海洋版デジタル田園都市国家構想」

海洋DXの実装

- ・データ利活用促進
- ・駿河湾内実証フィールド整備
- ・研究開発・事業化支援
- ・環境保全活動支援

海洋イノベーションエコシステムの創生

- ・JAMSTECなどの研究機関等との連携強化

ブルーテッククラスター構築への環境整備

- ・BlueTech Cluster Allianceへの加盟
- ・ブルーエコノミーEXPO(仮称)の開催

「海のユニコーン企業」の創出

- ・海洋スタートアップの集積
- ・高度デジタル人材の育成

海洋版デジタル田園都市国家構想のモデル構築事業

海洋イノベーションエコシステムの創生

- 国内外の産学官金の連携によるプラットフォームの構築
 - ・大企業とスタートアップ、大学と国研、金融機関・VCが参画するプラットフォーム「ブルーテックフォーラム(仮称)」を構築し、**人材・事業・資金が好循環する仕組を構築**
- ブルーテッククラスター構築への環境整備
 - ・世界で唯一の海洋関連産業クラスターのネットワーク「**The Blue Tech Cluster Alliance(BTCA)**」への加盟
 - ・**ブルーエコノミーEXPO・国際会議の開催**により、**県の海洋における優位性・将来性を発信し、日本への投資を呼び込む**

海洋スタートアップ企業の支援体制構築

- 駿河湾実証フィールドの整備・推進
 - ・駿河湾をはじめとした**静岡の海をテストベッドとして、海洋のデジタル化**(海洋観測機器等の開発・運用)**のための研究開発の体制を整備**
- 海洋スタートアップ企業の誘致・集積、創出・育成を総合的に支援、高度デジタル人材等の確保、活用
 - ・**有力な内外のスタートアップを**、駿河湾テストベッドの活用をインセンティブとして**誘致及び新規創出**を促す
 - ・スタートアップの成長を促進する**エコシステムを構築し、デジタル人材の確保・育成を含めスタートアップを一体的に支援**
- 既存のデータプラットフォーム活用による新たな企業支援機能構築
 - ・**データを活用した産業振興に資する支援機能**(ユーザーインターフェースの開発等) **の構築**

次期MaOIプロジェクト 戦略計画

MaOIプロジェクト第一次戦略計画

区分	内容
戦略Ⅰ	「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成 ○多様な主体が参画する「MaOIフォーラム」を設置・活用 ○県内外の大学・研究機関との連携
戦略Ⅱ	オープンデータ・オープンサイエンスの推進 ○魅力ある海洋微生物ライブラリーの構築 ○データ駆動型研究の推進
戦略Ⅲ	拠点・プラットフォームの整備と活用 ○MaOI-PARCを中心としたネットワーク型の拠点形成 ○AOI、ファルマ等との連携促進
戦略Ⅳ	研究開発領域の重点化 ○シーズ創出研究の実施 ○水産資源回復に資する研究の実施
戦略Ⅴ	産学官金連携による産業応用の推進 ○事業化や技術開発の支援 ○静岡県海洋産業クラスター等の機関との連携による産業応用の促進
戦略Ⅵ	人材育成・地域づくり・世界発信 ○多様な専門人材育成やまちづくり ○国内外のクラスターとの連携強化と情報発信

X(連携)

海洋イノベーションエコシステムの創生

- 国内外の産学官金の連携によるプラットフォームの構築 **(戦略のⅠと連携)**
- ブルーテッククラスター構築への環境整備 **(戦略のⅠ・Ⅴ・Ⅵと連携)**

海洋スタートアップ企業の支援体制構築

- 駿河湾実証フィールドの整備・推進 **(戦略のⅢと連携)**
- 海洋スタートアップ企業の誘致・集積、創出・育成を総合的に支援、高度デジタル人材等の確保、活用 **(戦略のⅤ・Ⅵと連携)**
- 既存のデータプラットフォーム活用による新たな企業支援 **(戦略のⅡと連携)**

(次期戦略に交付金事業を反映)

MaOIプロジェクト第二次戦略計画(案)

区分	内容
戦略Ⅰ	「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成 ○多様な主体が参画する「MaOIフォーラム」を設置・活用 ○県内外の大学・研究機関との連携 ○国内外の産学官金の連携によるプラットフォームの構築 ○ブルーテッククラスター構築への環境整備
戦略Ⅱ	オープンデータ・オープンサイエンスの推進 ○魅力ある海洋微生物ライブラリーの構築 ○データ駆動型研究の推進 ○既存のデータプラットフォームの活用による新たな企業支援機能の構築
戦略Ⅲ	拠点・プラットフォームの整備と活用 ○MaOI-PARCを中心としたネットワーク型の拠点形成 ○AOI、ファルマ等との連携促進 ○駿河湾実証フィールドの整備・推進
戦略Ⅳ	研究開発領域の重点化 ○シーズ創出研究の実施 ○水産資源回復に資する研究の実施
戦略Ⅴ	産学官金連携による産業応用の推進 ○事業化や技術開発の支援 ○静岡県海洋産業クラスター等の機関との連携による産業応用の促進 ○「ブルーエコノミーEXPO(仮称)」の開催 ○海洋スタートアップ企業の誘致・集積、創出・育成を総合的に支援、高度デジタル人材の確保、活用
戦略Ⅵ	人材育成・地域づくり・世界発信 ○多様な専門人材育成やまちづくり ○国内外のクラスターとの連携強化と情報発信 ○「The Blue Tech Cluster Alliance」への加盟 ○「ブルーエコノミーEXPO(仮称)」の開催

海洋版デジタル田園都市国家構想のモデル構築事業

交付対象事業の全体像

○海洋をめぐる潮流

国外
・海洋の持つ新たな可能性への大きな期待
(OECD、EU、国連レポート)

国内
・ブルーテッククラスター形成の支援
(第4期海洋基本計画(2023))

○県内の動き

・駿河湾への注目度の高まり
(世界有数の急峻な地形、日本一深い湾)

・清水港の海洋研究拠点化の推進
(2030年代前半を目標に拠点形成)

○これまでの取組

・The Blue Tech Cluster Alliance(BTCA)参加
(世界を代表する10クラスターの国際連携)

・ブルーエコノミー駿河湾国際ラウンドテーブル開催
(海洋版デジタル田園都市国家構想を提言)

・静岡県スタートアップ支援戦略策定(2023)

・海洋スタートアップ実証フィールドの提供、
域内連携

○今後の取組

海洋版デジ田構想モデルの構築
・海洋イノベーションエコシステムの形成
・海洋スタートアップの支援体制の確立

**ブルーテッククラスター形成
海洋関連産業の活性化**

**魅力ある雇用の創出
持続的な成長の実現**

課題分析と対応

○現状・課題

<現状>
・本県人口は若年層を中心に減少傾向が拡大
・将来推計人口：R2:363万人⇒R32:282万人

<課題>
・魅力ある雇用の創出

<現状>
・製造業：リーマンショック以降、回復の遅れ
・技術革新に伴う産業構造の変化

<課題>
・革新的技術を用いた新産業の創出

○産業を取り巻く状況と対応

<状況>
・市場に占める海洋関連産業の割合が高い
(生産額に占める割合:本県7.5%、全国:1.9%)

<対応>
・海洋関連産業の活性化

<状況>
・新興企業における従業者の増
(2009→2014年で255万人増)

<対応>
・スタートアップへの支援・創出

○具体的な取組

<海洋イノベーションエコシステム創生>
・国内外の産学官金連携プラットフォーム
「ブルーテックフォーラム」の組成
・BTCA加盟、EXPO・国際会議の開催

<海洋スタートアップ支援体制構築>
・駿河湾実証フィールド整備・活用推進
・海洋スタートアップの誘致、創出・育成支援

事業の先駆性

○ 駿河湾の特性や海洋関連産業の市場規模に着目した事業の展開

「デジタル」の活用による地方発の新産業創生等の促進

「海洋版デジタル田園都市国家構想」のモデル構築

【KPI】

＜アウトカム＞

- ・ 地域における新規雇用者数（海洋関連産業）

＜アウトプット＞

- ・ 海洋スタートアップ創出・誘致数
- ・ 国内外のスタートアップ、VC、投資家等の招致件数
- ・ 国外の研究機関等との共同研究件数

世界唯一のブルーテッククラスターの連携組織「BlueTech Cluster Alliance (BTCA)」への加盟

世界クラスのブルーテッククラスター形成【日本初】

BTCAの代表機関「TMA BlueTech」と連携したコンソーシアムの構築・事業推進

世界規模の事業展開

スタートアップ等の要素を加えた新たなプラットフォーム「ブルーテックフォーラム(仮称)」の構築

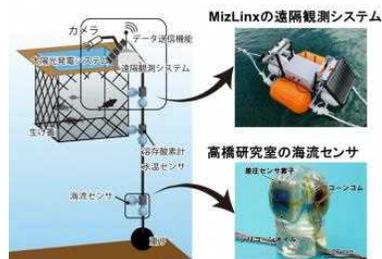
海洋イノベーションエコシステムの創生

駿河湾等の実証フィールドを活用した海洋スタートアップ企業への支援

「海のユニコーン」の創出



○ 駿河湾の特性を活かした技術・商品開発の具体例



内浦湾の環境モニタリング技術の開発
(私立大学・スタートアップ)



駿河湾海底環境・生態系モニタリング技術の開発
(県内企業・国立大学・国立研究所)



超小型AUVとデータ解析システムの開発
(スタートアップ・国立大学)



県産アカモクとマグロを使用した高保湿化粧水
(県内企業)



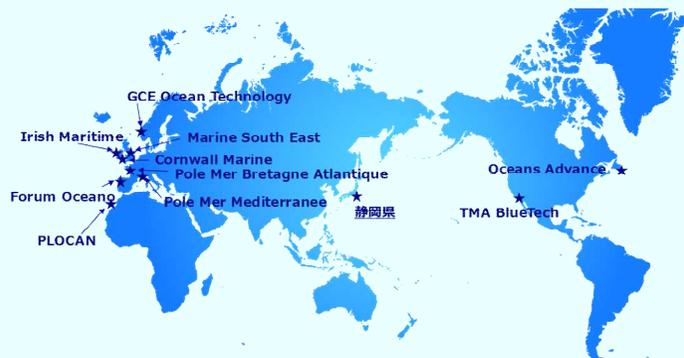
海洋微生物を活用したハラール対応ラーメン
(県内企業)

今後の具体的事業 1. 海洋イノベーションエコシステム創生

「The Blue Tech Cluster Alliance(BTCA)」加盟

【ブルーテッククラスターアライアンス(BTCA)】

- 2017年設立(現在10機関が加盟)。
- 積極的な地域・国内・国際的な協力を通じて、全ての関係者の相互利益のために、知識に基づく海洋関連産業の持続可能な投資と成長を促進
- ブルーエコノミーに関する国際会議を毎年開催



【加盟の狙い】

- 海洋イノベーション創出ノウハウの取得
- エコシステム創成のための機能アップデート
- 国際的な訴求力を有する本県の地域資源をPR
- 国内外の投資家の参入を促進



【成果】

- 革新的な技術開発等を次々と生み出す仕組みの構築

EXPO・国際会議の開催

【ブルーエコノミーEXPO(仮称)の開催概要案】

- 開催時期：令和6年7月頃(予定)
- 開催会場：静岡県静岡市清水区内(清水港周辺)
- 開催概要
 - 1 海の未来会議@駿河湾(仮称)
国内外の研究者、産業クラスター代表者、VC、企業等による基調講演、意見交換
 - 2 展示会
・国内外の企業、スタートアップ、研究機関、団体等が出展(30~50団体を想定)
・出展企業、研究機関等によるピッチ、セミナー
・静岡の海のポテンシャルをPRする展示
・出展企業と投資家とのマッチング機会提供等

【開催の狙い】

- 駿河湾のポテンシャルを国内外に示す
- 海洋に関する先進情報の集積・情報発信
- 海洋に関する新たな価値創造
国内外の多様な産業分野の企業等が相互交流を通じてイノベーションを創出



【成果】

- 海洋スタートアップ、VC等との連携体制の構築

今後の具体的事業 2. 海洋スタートアップ支援体制構築

駿河湾実証フィールド整備等

○清水港は実証フィールドとしての実績があり、国内外から関心を集めている



実績:水中ドローン実験
(国交省:海の次世代モビリティ実証事業)

【現状・課題】

- ・実証フィールドのエリア拡充
- ・他港を含めた利用ニーズ増加

【取組】

- ・調整窓口の一本化
- ・フィールドの特性のDB化

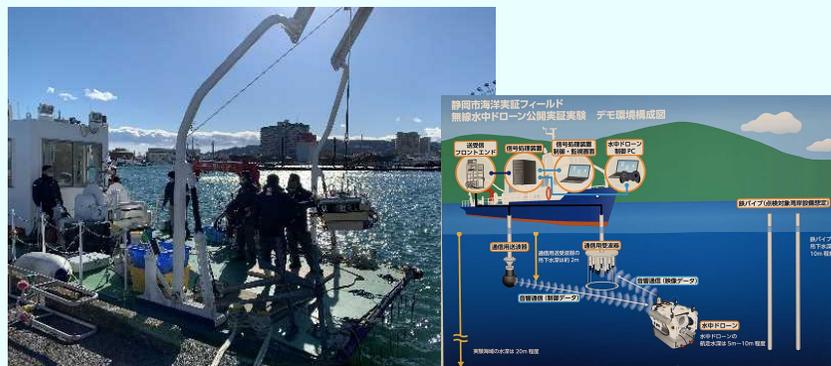
【成果】

- ・研究機関・企業等の集積
- ・海洋のデジタル化(海洋観測関連機器(AUVなど)開発)の促進



自律型無人探査機(AUV)

海洋スタートアップの誘致、創出・育成支援



駿河湾における実証事業を推進
(NTTグループ:無線制御水中ドローン公開実証実験)

【現状・課題】

- ・本県の経済成長の原動力となり、県内企業が抱える課題や社会課題の解決にも貢献しうるスタートアップを効果的・戦略的に支援するため、R5年9月に「静岡県スタートアップ支援戦略」を策定

【取組】

- ・県内全域を「まるごと実証フィールド」として地域資源を活用し、スタートアップの集積を推進
- ・駿河湾を「世界のテストベッド」として、国内外のスタートアップやVC等の参入を促進

【成果】

- ・研究開発促進及び(デジタル)人材確保
- ・スタートアップの成長を促進するエコシステムの創生
- ・研究開発成果の社会実装の場(先進的拠点)形成

海洋資源等のデータ連携・利活用

○既存のデータプラットフォームは784の海洋由来微生物を公開(未公開株5,000程度)

【現状・課題】

- ・学術研究寄りのデータ構成
- ・産業応用に向けたデータが不足

【取組】

- ・企業のニーズ調査に基づいた情報の整備及び提供(機能情報の登載、提供等)
- ・他機関とのデータ連携

【成果】

- ・海洋資源の活用に向けたイノベティブな事業化支援機能構築
- ・海洋資源の新たな機能の解明
- ・産業化に資するデータのオープンデータ化



データプラットフォーム

開催概要

- 国内外の有識者が参集して、持続可能な海洋利用について考え、海と人が共にある暮らしを未来につなぐために今我々がなすべきことについて議論
- その実現に向け日本が取り組むべき方向性について、国への提言をとりまとめ

提言ポイント

- デジタル田園都市国家構想の「海洋版」の発信
- 国のリーダーシップのプラットフォームとなる組織の創設（「海の未来会議」等）
- 政府の「駿河湾スマートオーシャン構想」への積極的な関与

主な出席者

	氏名	所属	
主催者	松永 晃	一般財団法人マリンオープンイノベーション機構 代表理事	
	橋本 正洋	一般財団法人マリンオープンイノベーション機構 理事・統括プロデューサー	
	五條堀 孝	一般財団法人マリンオープンイノベーション機構 研究所長	
共催者	川勝 平太	静岡県知事	
	難波 喬司	静岡市長	
	鈴木 與平	一般社団法人海洋文化・研究拠点化推進協議会代表理事会長	
協力者	高柳 良和	デロイトトーマツコンサルティング合同会社 執行役員 マネージングディレクター	
来賓	上川 陽子	衆議院議員 駿河湾スマートオーシャン議員連盟会長	
	井林 辰憲	衆議院議員 駿河湾スマートオーシャン議員連盟会員	
	深澤 陽一	衆議院議員 駿河湾スマートオーシャン議員連盟会員	
	沖住 幸三	農林水産副大臣 衆議院議員 勝俣 孝明 様 秘書（代理出席）	
オブザーバー	佐藤 勝	内閣府 総合海洋政策推進事務局 参事官	
	植村 忠之	国土交通省 総合政策局 海洋政策課長	
	山本 大志	国土交通省 中部地方整備局港湾空港部 港湾空港部長	
	山之内 裕哉	文部科学省 研究開発局海洋地球課 海洋地球課長	
	伊藤 有佳子	文部科学省 研究開発局海洋地球課 海洋地球課長補佐	
	山本 隆久	水産庁 漁政部企画課企画班 課長補佐	
	杉本 留三	環境省 水・大気環境局水環境課 海洋環境室長	
	R T 出席者	足達 英一郎	株式会社日本総合研究所 常務理事
		梶原 将	東京工業大学生命理工学院長 教授
阪口 啓		東京工業大学 工学院教授、超スマート社会卓越教育院長	
角南 篤		公益財団法人笹川平和財団 理事長	
平 朝彦		東海大学海洋研究所長 教授	
竹山 春子		早稲田大学先進理工学研究科 教授	
中山 一郎		国立研究開発法人水産研究・教育機構 理事長	
大和 裕幸		国立研究開発法人海洋研究開発機構理事長	
岸本 喜久雄		国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センター センター長	
川添 雄彦		日本電信電話株式会社 代表取締役副社長 研究開発担当	
Michael Jones		TMA BlueTech Founder and Board Chair	
Chris Bowler		Tara Ocean Project, President of Statione Zoologica Anton Dohrn at Naples	
Carlos M. Duarte		Blue carbon proponent, KAUST Distinguished Professor	
Craig McLean		Global Ocean Observing System (GOOS) Steering Committee of IOC/WMO	
Ruben Eiras		Secretary-General of Forum Oceano-the national Portuguese BlueTech cluster	
竹内 四季		株式会社イノカ 取締役COO	
枝廣 淳子	NPO法人ブルーカーボンネットワーク 代表		

